101

『五行大義』に見える医経の引用について

橋本　典子
日本鍼灸研究会

『五行大義』5巻は，隋の蕭吉が撰じた五行説の解説書で，先秦から隋までの五行説が収集，類別され，五行に配当される事象が網羅されている．本書は中国では宋以後に佚亡したが，日本では奈良時代に伝来し，陰陽道に取り入れられ，種々の古鈔本や刊本が伝存している．また本書には，佚書を含む多数の引用が見られるが，その中には医経（『素問』『難経』『甲乙経』）が含まれていることから，医経校勘の重要資料となっている．以下，『五行大義』に見える医経経文（明記された引用書名のあるもののみ）を調査し報告する．底本には『五行大義校注』（中村璋八編，汲古書院，1984年）の本文を採用し，校勘資料として，『素問』は顧従徳本，『霊枢』は明刊無名氏本，『難経』は慶安本と濯纓堂本，『甲乙経』は医統本を使用した．

『五行大義』の医経の引用は，巻第一の第三論数・第二者論五行及生成数（1），巻第三の第十四論雑配・第一者論配五色（2），第二者論配聲音（1），第四者配蔵府（9）に見られた（丸括弧内の数字は回数．以下同じ）．

書目別引用回数と所出箇所（類文や抜粋も含む）は次の通りである．『素問』(9) は，陰陽応象大論第五，霊蘭秘典論第八，六節蔵象論第九（玉機真蔵論第十九にも同文有り），五蔵生成論第十，蔵気法時論第二十二，宣明五気篇第二十三が引かれている．また所出の篇不明が二条，「素問」と記載はあるものの『霊枢』本輸第二を引く条文が一条ある．『甲乙経』(4) は，巻一・五蔵変腧第二，五蔵六府陰陽表裏第三，五蔵六府官第四，五色第十五が引用されている．ちなみに以上の『素問』『甲乙経』の引用回数と所出箇所には，『道経義』と『河図』からの引用部末尾に見える「此與素問同」「甲乙素問説同」を含んでいる．『難経』（本文中では「八十一問」と表記）(2) は，三十二難，三十六難が見られる．医経の引用内容は，概ね五行と五蔵，それに関連する事象（例えば五声や五神などの関連事項）を抜粋，整理したもので，陰陽や相生相克などの記載は見られない．

『五行大義』の引用をそれぞれの原文と比較すると，『甲乙経』『難経』では大きい異同は無いが，『素問』では句の異同が散見する．例えば『五行大義校注』112頁3～6行目には「素問云，肝者為将軍之官，謀慮出焉．心者為君主之官，神明出焉．脾者倉廩之官，五味出焉．肺者相傅之官，治節出焉．腎者作強之官，伎巧出焉．」とあるが，『素問』霊蘭秘典論第八3巻1葉表7行目～裏5行目には「心者君主之官也，神明出焉．肺者相傅之官，治節出焉．肝者将軍之官，謀慮出焉．……脾胃者倉廩之官，五味出焉．……腎者作強之官，伎巧出焉．」となっており，『素問』から引用する際に木，火，土，金，水の順に並ぶよう，句を移動させていることが分かる．『五行大義』中には，『尚書』洪範所載の古文説の五行論なども引かれているが，この並び順は，前漢に成立した『春秋繁露』などにも見られる今文説の五行論に則している．

『五行大義』には，以上述べてきた医経とは別に，『黄帝養生経』が巻第三の第十四論雑配・第三者論配気味に5回登場する．『黄帝養生経』は既に佚書であるが，その引用内容はすべて五味についてであり，『霊枢』五味第五十六（3），五味論第六十三と，『素問』蔵気法時論第二十二（1），『霊枢』九鍼論第七十八（1）に対応している．ただ，『霊枢』の原文と比べると字句の異同は多く，前述したように引用内容を今文説の形に改める箇所も見られる．

『五行大義』に引用されている医経の経文は，六朝以前の形態を遺すものであり，校勘資料としての価値が高い．ただ，その内容には六朝時代の新しい五行学説の反映が見られるため，取り扱いに注意を要する．